

～教育目標～

「よく学び、より鍛え、よりよく挑む」



児童生徒の育成



春の訪れとともに、暖かな陽光が差し込み、野山の草花が一斉に芽吹く季節となりました。令和7年度 京都府立舞鶴支援学校の校長を拝命した南田 高典(みなみだ たかのり)と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

舞鶴支援学校は、舞鶴若狭自動車道・舞鶴西インターチェンジのすぐそば、この舞鶴市堀の地に開校して今年度、21年目を迎え、小学部 81名、中学部 40名、高等部 60名、全校児童生徒数は開校以来最多の 181名で令和7年度をスタートします。舞鶴市全域を校区とし、地域に見守られ大切に歩みを重ねてきた学校です。今までつながってきた様々な力をお借りし、人・文化・産業等の資源を存分に生かしながら、子どもたち一人一人の可能性を最大限発揮するより良い自立と社会参加の実現に向けて教育活動を進めて参ります。開校 21年目の新たな歩みを踏み出し、これからの特別支援学校の在り方、また、特別支援教育のセンター的役割を果たす拠点として地域に貢献できる姿を追求し、足元を謙虚に見直しながら教育活動を進めて参りたいと存じます。

研究活動においては、舞鶴市と連携し、文部科学省「インクルーシブな学校運営モデル事業」に、昨年度から取り組んでいるところです。「障害のある児童生徒と障害のない児童生徒が交流及び共同学習を発展的に進め、一緒に教育を受ける状況と、柔軟な教育課程及び指導体制の実現を目指す」とするこの事業の先には、障害のある人もない人もそれぞれに役割をもちながら自分らしく参画できる共生社会が力強く形成され、送り出す子どもたちが居住地である地域の中で生き生きと生活する姿があると思いを描いています。2年目である本年度は、地域の小・中学校、高等学校等に学ぶ子どもたちとのつながりや関わりを広げ、深めていく、「知り合う」から「つながり合う」にコマを進め、交流及び共同学習の新たな展開に尽力していきたいと考えています。さらには、京都府におけるインクルーシブ教育システムを構築するモデルとなるよう意気込んでいます。

「よく学び、より鍛え、そしてよりよく挑め」の校訓のもと、それぞれの子どもたちが、個別の指導計画に基づくオーダーメイドの学びを通してたくさんの「分かる」「できる」に出会い、「もっと知りたい」「もっとできるようになりたい」と心揺さぶられて、新たなこと、未経験の場面にも臆せず立ち向かっていく力をぜひ育てていきたいと考えています。

コミュニティ・スクールの取組や地域での体験・実習等のさらなる充実を含め、学校教育を経由してよりよい自立と社会参加へとつなげるために、保護者の皆様や地域の社会資源も大いにお借りしながら、子どもたちが様々な体験を通して生きる力を高めていくことができるよう、今後も変わらぬ御理解とより一層の御支援を賜りますようお願い申し上げます。年度当初の御挨拶とさせていただきます。

京都府立舞鶴支援学校長 南田 高典